

3 英語科

1. 「英語は1, 2年で絶対に完成させる」

1、2年で英語の基礎をすべて教わることになる。3年になってからは演習を行う。そのときに基礎が身につけていないと、応用力を身につけることは難しい。そういった先を見据えながら、1年次から目の前のことを着実に身につけて欲しい。

2. 黄金のサイクル = 『 予習 ⇒ 授業 ⇒ 復習 』

予習なくして授業はない。授業は予習を前提として進むので、予習をしないといふと授業を受ける意味はない。予習でも頭を使うこと。すぐに辞書で調べたり、解答を見たりしないこと。わからないものを考えることに予習の意味がある。その後、自分で調べて、それでもわからないところは、授業で質問し、確認する。中学までの癖で、『 予習は授業の前日にやる 』と思っている人も多いが、週末などの時間があるときに行い、前日にその予習を見直して授業に臨むものだ。ノートに英語を書き写し、辞書から単語の意味を書き写すだけでは『 予習 』ではなく『 作業 』だ。『 作業 』は勉強ではない。頭を使って考える習慣を身につけること。

授業は集中し、積極的に受けること。ノートをとるといふ作業だけに一生懸命にならないこと。脳をフル回転させ、授業で得られるものすべてを手に入れよう。

予習をし、授業をしっかりと受けていたとしても、復習をしなければ英語の実力は全く身につかない。授業中はわかっていたのに、テスト前に「あれ？なんだったっけ？」となることは多い。人間の記憶力は頼りないものだ。その日のうちに復習をし、1週間後にも復習し、授業で得たものをしっかりと身につけよう。「授業中に下線を引いて、蛍光マーカーで線を引いて理解した気になって満足」ということにならないように気を付けること。当然のことながら、考査前には他の科目も勉強する。日々の復習を習慣化し、定期考査前に慌てることのないようにしよう。

理解した内容を自分のものとするためには音読が効果的だ。理解した文章を何度も読み、自分のものにしよう。音声CDも活用しよう。書く、見る、話す、聴くなど、様々な感覚を使って復習していこう。

3. ノートの取り方

教科書には書き込みをせず、ノートを作ること。注意事項は以下の通り。

- ① 復習するときにわかりやすいように、形式を決めて、どこに何を書くか決めておく。
- ② 授業中の訂正事項やメモ、復習での情報の追加などを書き込めるように、十分な空白をとる。
- ③ 板書を写すだけでなく、話の中で大事だと思うことや疑問に思うことを小まめに書きとめる。
- ④ 予習等で間違えたところは消さずに残し、訂正は重ねないで書く。間違いは最大の財産。
- ⑤ ノートを使って学習することが目的なので、きれいに作ることに時間をかけて満足して終わらないこと。

4. 自学教材の使い方

1年次の自学教材には、「チャート式基礎からの新々総合英語」(文法参考書)がある。これをきちんと身につけるかどうかで差がついてくる。授業では扱わないが考査には出題されるので、計画的に学習できるかどうかを試される。強い意志をもって計画的に学習を進めること。そして全ての教材を理解するまで徹底的に何回でもやり続けること。ただ覚えるのではなく、理解をすることが大事だ。

5. 辞書の使い方

辞書には英語に関する全ての情報が詰まっている。単語で重要なのは意味だけでなく、その語法であり、品詞、名詞の可算・不可算、動詞の自動詞・他動詞や文型、形容詞の限定・叙述といった語法を知らなければ使えないという

ことが学習を進めるにつれわかってくる。よって英語を学習する際にはいつでも辞書がすぐ使えるようにしておくべきであり、また、知っていると思う語でも、引くたびに発見があるので、小まめに引くようにしましょう。

電子辞書と紙辞書については、それぞれ特性を生かして、上手に使い分けるとよい。たくさんの単語を短い時間で調べたり、何冊もの辞書を見比べたり、音声を確認するには何といても電子辞書が便利であるが、使い方を熟知していないと、例文や語法といった重要な情報に行きつかず、意味のみで終わってしまいがちである。一方、紙辞書は、各語の全体像を把握できて、詳しい使い方が一目で見られる点で、必要な情報に行きつきやすい。初心者は、家ではぜひ紙辞書を引いて、しっかり読み込み、辞書の使い方と英語の面白さを学んでほしい。

また、英英辞書をぜひ活用してほしい。似たような単語の意味を比べて正確な意味を把握するために英英辞書は最適であるし、辞書を読むことにより、読む力もつく。また、単語などを英語で説明するアウトプットの練習にも英英辞書が役に立つ。電子辞書を購入するとしたら必ず英英辞書の入ったものにしよう。

*おすすめ辞書 ジーニアス G5 (大修館書店) オーレックス (旺文社)

6. 浦和一女の英語教育の魅力の一つ 多読について

浦和一女では、高校1年生の夏休みから多読指導を行っている。多読の目的は英語で書かれている本を楽しくたくさん読みながら、英語を身につけるためだ。本校には約1万冊の洋書がある。種類も様々で、「おさるのジョージ(Curious George)」などのかわいいほのぼのとした絵本から、「ハリーポッター (Harry Potter)」などのファンタジーまで多岐にわたる。易しいレベルの本をたくさん読みながら、興味、関心、そして英語力を確実に伸ばしていこう。

<先輩方の多読の感想>

「楽しんで英語の力がつくなんて、これほど良いことはありません。続けることで自然と英語の力がつきました」
「文が短い絵本から読みました。最初から英語を嫌いにならなくてよかったです。」

「英語がスラスラと頭の中に入ってくるようになった。わからない単語を文脈から推測できるようになった。英語を好きになった」

「ナチュラルな英語を身につけることができました。速読力がついた。楽しめた」

「多読はじわじわ効いてくるのでめげずに頑張ってください。英語力を身につけたいならば、遠回りのように実は近道かもしれません」

7. 心構え

① 「素直に、真摯に」

一女の英語を信じて、与えられたものをきちんとこなしていくこと

② 「たくさん失敗する」

「全力で勉強をした。でも、これくらいしか結果を取れなかった。」その経験をもとに次のテストに向けての「各自の」勉強法が変わってくるはず。自分にあった勉強法を見つけるために、その失敗を次に活かすこと。

最良の勉強法は人によって違うのだ。

③ 「結果にこだわる」

100回勉強しても、真に理解をしていなかったら意味がない。「だいたいわかった」は「わかってない」と思ったほうがいい。「人に説明できる」レベルまで理解を深めよう。

④ 「あきらめない」

英語は努力をし続ければ必ず伸びる。すぐに結果が出なくても、信じて努力し続けること。

⑤ 「積極的に英語を使う」

新しい大学入試などで、これまで以上に表現力(スピーキング、ライティング)が試される。普段から積極的に英語を使って、英語を話すことに抵抗がなくなるようにすること。

